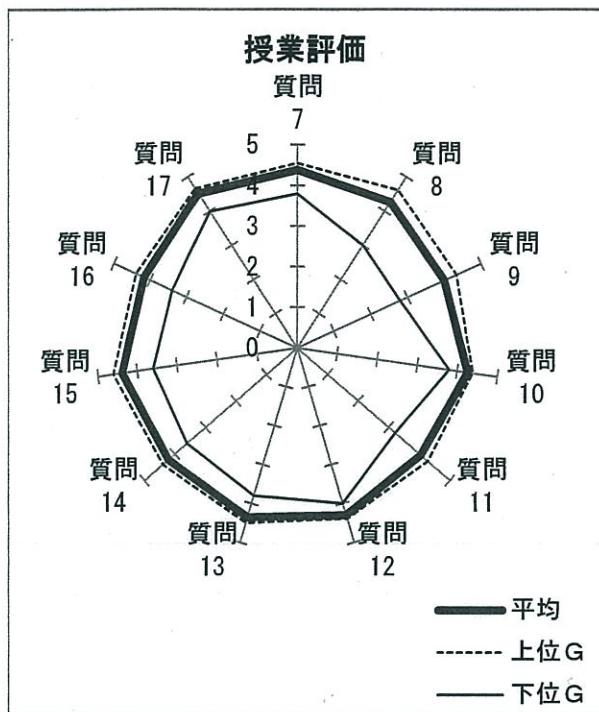


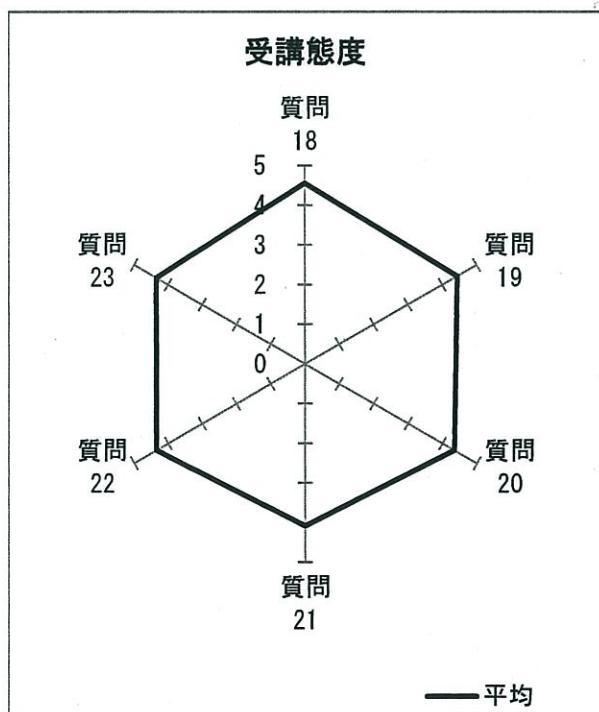
科目コード 702 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 津田 礼子 環境デザイン論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.4	4.6	3.8
質問8	4.3	4.6	3.0
質問9	4.0	4.3	2.8
質問10	4.3	4.4	3.8
質問11	4.0	4.3	3.2
質問12	4.3	4.4	4.0
質問13	4.3	4.5	3.8
質問14	4.2	4.4	3.6
質問15	4.4	4.6	3.6
質問16	4.2	4.4	3.4
質問17	4.5	4.7	4.0
平均	4.3	4.5	3.5

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.3
質問21	4.1
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.4

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	津田 礼子	環境デザイン論	24

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回の「環境デザイン論」では、学生のほとんどが熱心に受講していて、とても授業がやりやすかつた。

「質問17：新しい知識・技術・理論等の取得への有用性」は平均4.5、上位4.7、下位4.0と、平均して、ほぼ高い評価が得られている。しかし、最重要と考えている「質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか」について、平均4.2、上位4.4、下位3.4の評価で、上位と下位の評価に差がある。2016年前期にも「環境デザイン論」の授業評価を実施したが、この項目について類似した結果が見られた。下位の学生が十分な理解に達していないことがわかる。また、「質問9：教員の話し方」は、平均4.0、上位4.3、下位2.8と、やはり下位が低く、上位との差が大きい。2016年前期も同様の結果がみられたが、この時よりも上位と下位の差が大きい。

試験の結果においても2016年度前期同様、よくできた学生とできなかつた学生に差が認められた。授業を積極的に受講していない学生、理解力の低い学生に対して、さらに工夫をしたい。また、授業を真剣に受け、理解力のある学生には、より興味・関心を喚起していきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

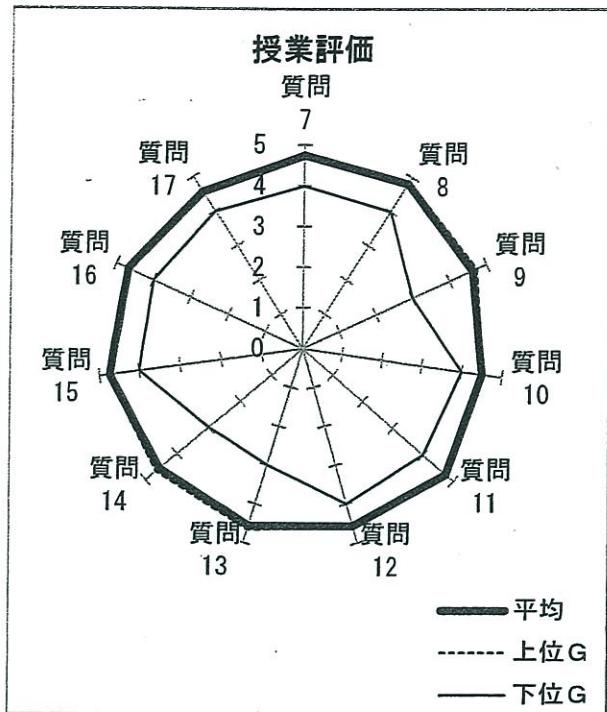
2019年度担当予定科目名：インテリア史

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2016年度同様、環境デザイン論と関連する内容なので、方法と成果を比較したい。

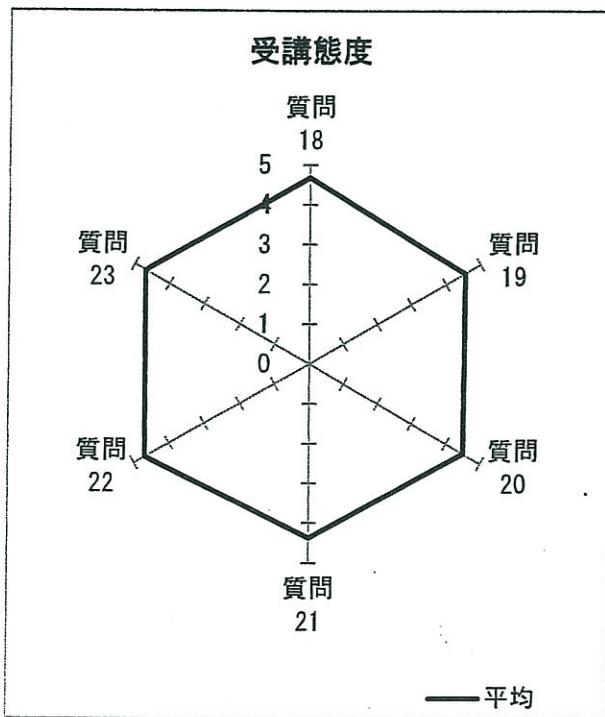
科目コード 703 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 寺田 貴子 染色実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	4.0
質問8	4.8	4.9	4.0
質問9	4.6	4.7	3.0
質問10	4.5	4.5	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.6	4.6	4.0
質問13	4.6	4.7	3.0
質問14	4.6	4.7	3.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.7	4.7	4.0
質問17	4.6	4.6	4.0
平均	4.6	4.7	3.7

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.5
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	寺田 貴子	染色実習	15

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「教員の授業評価」における質問項目の7から17について、各評価の平均値は4.5から4.8の範囲にあり、その平均値は4.6であった。評価が4.8と比較的に高かった項目は、質問7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」、質問8「教員の授業時間遵守」、質問11「教員の説明のわかり易さ」、および質問15「(自分は)授業を理解できたと思うか」の4項目であった。他方、評価が4.5と低かったのは、質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」の1項目であった。評価のばらつきが比較的大きかったのは、質問9「教員の話し方」、質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」および質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」の3項目であった。全質問・11項目に対する評価結果を示した「くもの巣グラフ」の形状は比較的大きな円に近いことから、本授業は全受講生から概ね好評価を得たとみなすことができよう。

「学生の受講態度」に対する質問項目の18から23について、各評価の平均値は4.4から4.7の範囲にあり、平均値は4.6であった。評価が4.7と比較的に高かった項目は、質問18「(自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか」、質問22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」、および質問23「私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴」の3項目であった。他方、評価が4.4と比較的低かった項目は、質問21「授業の予習・復習を行ったか」の1項目であった。全6項目の質問に対する結果を示した「くもの巣グラフ」の形状は、比較的大きな六角形に近く、本授業における学生の受講態度は、全体として良好であったとみなされよう。

本授業「染色実習」は、学科の専門教科における選択科目で、免許や資格等に直接関わるものではないが、伝統染色や工業染色に用いられる染料の種類、染色技法、染色性の評価方法などについては、科学的な知識や理解力が求められる内容であった。学生にとっては、予想以上に「化学」の基礎理論が必要であることを再認識させられながらも、作品づくりに熱心に取り組みながら、理論と技術を学修していくようであった。受講生らが真面目に積極的に取り組んだことは、本アンケートの結果からも示唆されると分析・評価する。

II. 2019年度に向けての取り組み

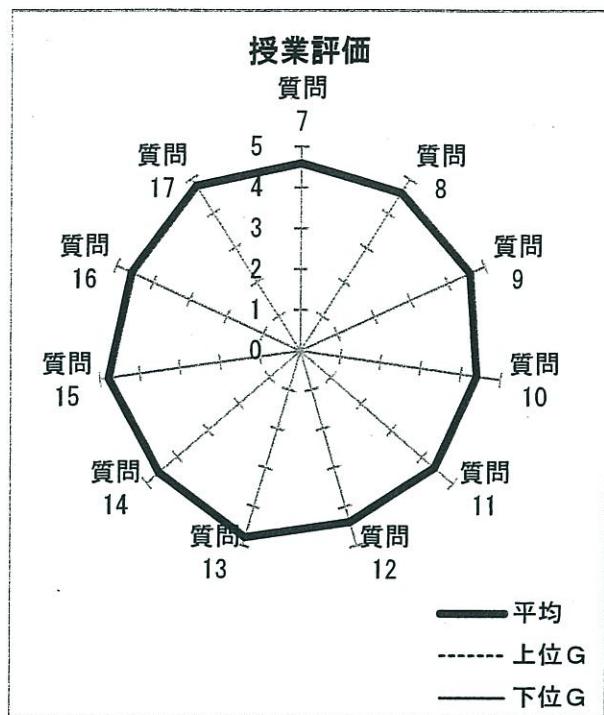
2019年度担当予定科目名：染色実習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- (1) 今回、授業評価の平均値が4.8と比較的に高かった、「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」「授業時間遵守」「説明のわかり易さ」および「授業理解」については、次年度も真摯な姿勢で継続して取り組む。
- (2) 授業評価の平均値が4.5と比較的に低かった、「教材・機器・板書等の効果的な使用」については、受講生にとってより興味・関心が深まるような教材の導入、視聴覚機器の活用、板書等の改善策を検討するなど、効果的な授業ができるよう、改善に努める。
- (3) 本授業は、学科専門科目として2019年度後期にも開講される予定である。受講生にとって理解しやすく意義ある授業となるように、継続して自己点検しつつ新たな取り組みを検討していく。

科目コード 705 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 浜谷 信彦 学科専門セミナー



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 8	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 9	4.6	4.6	#DIV/0!
質問10	4.4	4.4	#DIV/0!
質問11	4.4	4.4	#DIV/0!
質問12	4.4	4.4	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

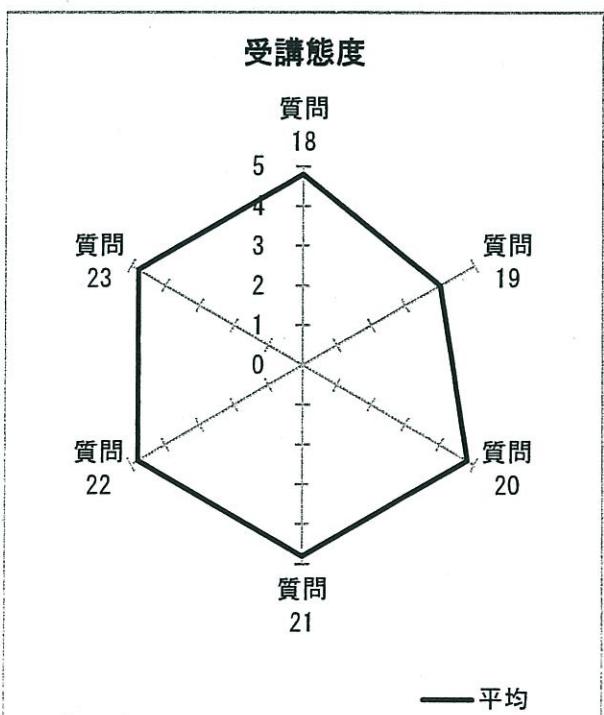
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.0
質問20	4.8
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	浜谷信彦	学科専門セミナー	7

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この科目は、生活デザインの実践的な内容であり、デザイン思考の「共感」に基づいて、課題を抽出しデザインで解決していくプロセスを学んでいくことが特徴である。3年後期から4年前期の開講科目であり、実社会への適応力を身に着けることも見据え、実践的プロジェクトを主としており、地域・社会とのコミュニケーションやプレゼンテーションの機会を設定している。

授業評価の全体の平均は4.6で、すべての項目が4.4以上であった。全体的にある程度まとまっていた。その内、高かった項目は質問13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、15「(自分は)授業を理解できたと思うか」17「新しい知識・技術・理解」の平均4.8であった。担当する他の授業に比べて専門セミナーでは項目10、11が平均4.4と比較的低かった。実践的プロジェクトでは、地域の方々とのコミュニケーションの中から混沌とした情報を整理し、課題を抽出、問題定義するところから始まる。ほとんどの学生が初めての経験でありコミュニケーションの苦手な学生も少なくない。初動時のガイダンスでのサポートを見直したい。

受講者の積極的な参加と地域の方々の協力によって、有意義な授業となっていることを感謝したい。

II. 2019年度に向けての取り組み

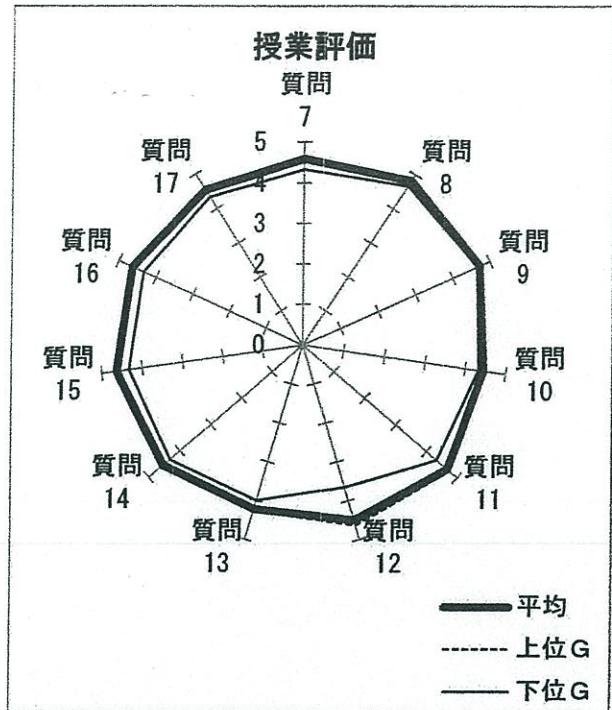
- 2019年度担当予定科目名：
- デザイン論
 - プロダクトデザイン論
 - ビジュアルデザイン論
 - グラフィックデザイン
 - デジタルアート
 - CGデザインI
 - CGデザインII
 - プロダクトデザインI
 - プロダクトデザインII
 - インダストリアルデザイン
 - 陶芸
 - 商品企画論
 - 専門セミナー(3年・4年)
 - 卒業研究
 - キリスト教と文化

実社会と連携した実践的プロジェクトでは、セオリーにはない想定外の壁にもしばしばぶつかる。地域の方々とのコミュニケーション共感の中から次のトビラの鍵を見つけていく。其々の学生が更に能動的に参加できる場面を更に増やし、問題提起から解決へ向かうプロセスを経験できるように工夫を重ねていきたい。

現代におけるデザインの社会的役割や意義、面白さが伝わるように研究を重ねていきたい。

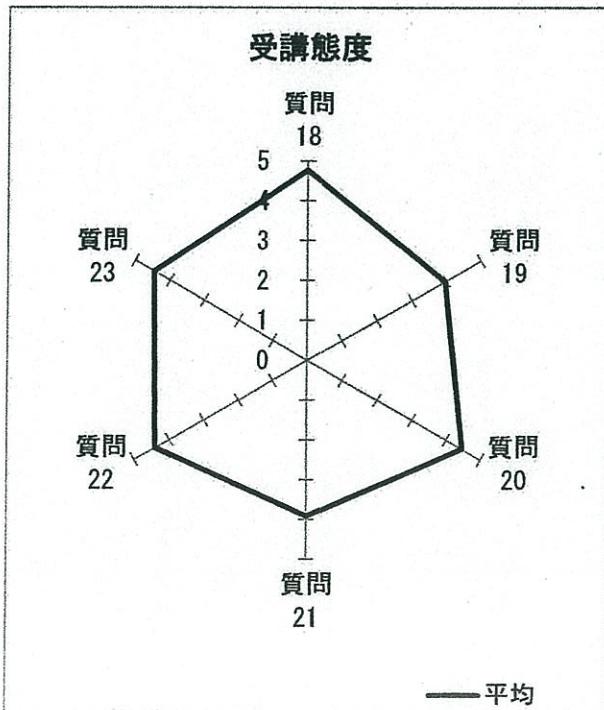
科目コード 708 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 住居構造学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.6	4.6	4.3
質問8	4.8	4.8	4.7
質問9	4.7	4.7	4.7
質問10	4.5	4.5	4.3
質問11	4.7	4.7	4.3
質問12	4.5	4.6	3.7
質問13	4.2	4.3	4.0
質問14	4.5	4.6	4.3
質問15	4.6	4.7	4.3
質問16	4.6	4.7	4.3
質問17	4.5	4.6	4.3
平均	4.6	4.6	4.3

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.0
質問20	4.5
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン	橋口 剛	住居構造学	25

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

建築分野のイントロダクションという位置づけの元、建築の基本に触れるための授業を行った。

授業は、住宅建築の基本的な教科書を用い、住宅へのプランニングに関わる基本的な様々な要件について学習を行った。多くの学生が建築への興味が高くないなかで、建築への導入と位置づけたこの授業が、平均値4.6という結果かと思われる。

II. 2019年度に向けての取り組み

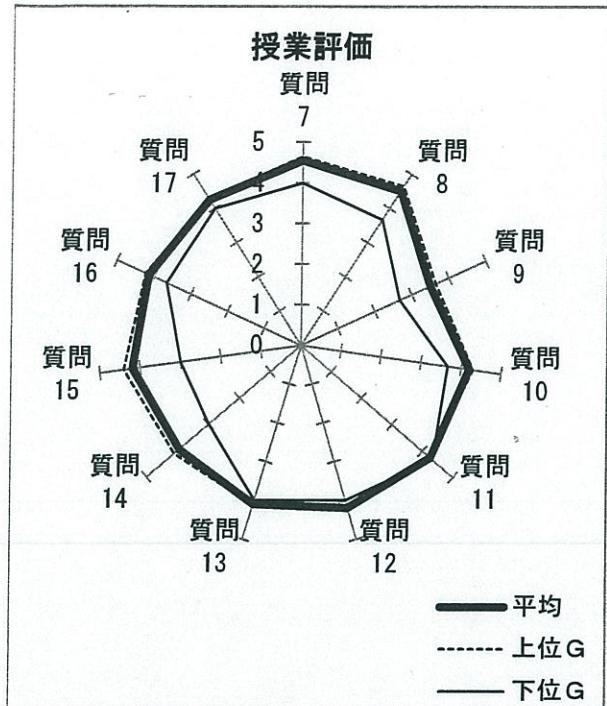
2019年度担当予定科目名：住居構造学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

さらに研鑽を重ね、学生がより建築への興味と知識を吸収できるよう、授業の改善を図っていきたい。

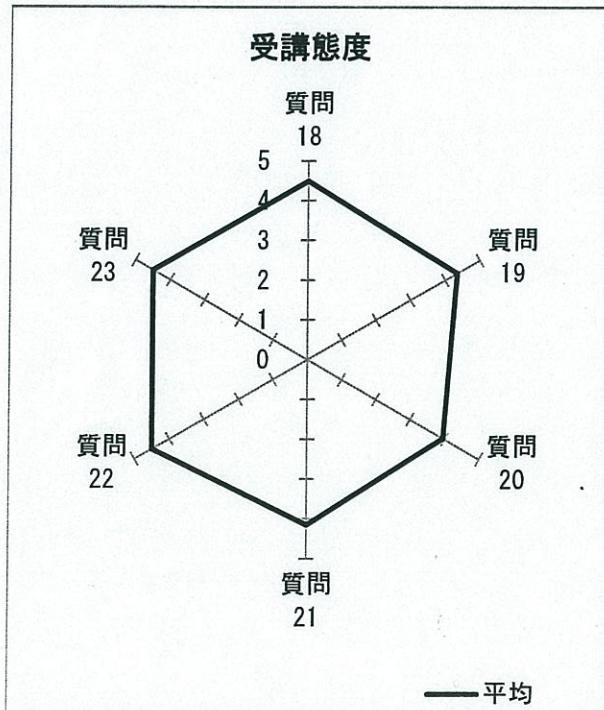
科目コード 709 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 毛利 洋子 インテリアデザイン



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.6	4.6	4.0
質問8	4.5	4.6	3.7
質問9	3.5	3.6	2.7
質問10	4.2	4.3	3.7
質問11	4.3	4.2	4.3
質問12	4.2	4.2	4.0
質問13	4.1	4.1	4.0
質問14	4.0	4.1	3.0
質問15	4.2	4.4	3.0
質問16	4.2	4.2	3.7
質問17	4.3	4.3	4.0
平均	4.2	4.3	3.6

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.0
質問21	4.2
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	毛利洋子	インテリアデザイン	23

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問9（教員の話し方）の評価が他と比べて明確に低い。
→学生からのコメントにも、声が小さいとの意見があり、声が通っていないことが考えられる。
- ・その他、コメントにも、書き込み用の配布プリントの括弧がおかしい（小さい）とのコメントがあり、資料の訂正等が必要と認識できた。
- ・質問14,15は、教員から学生への理解度の確認と、学生自身による理解に対する認識であり、下位と上位の評価の差が大きい。書き取り等の様子や、学生からの指摘に応じて、パワーポイントのページを戻るという対応は行っているが、授業中に口頭での確認も行う必要があるかもしれない。

5

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：

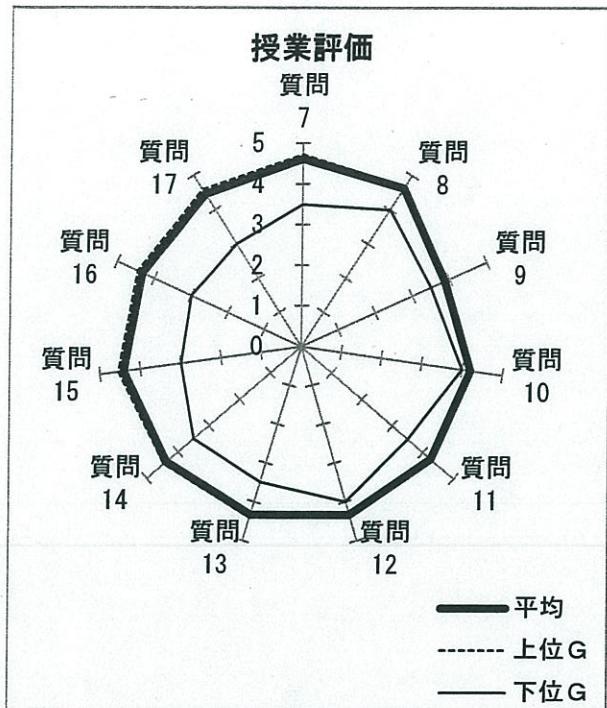
基礎製図、デッサン、インテリアデザイン、インテリアコーディネート、建築材料学、
インテリア材料、プロダクトデザインⅢ、色彩論、建築設備、建築法規、建築史、
学科専門セミナー、卒業研究

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・レポートや、配布プリント等への記入チェックの状況をもとに、学生の理解度に対して改善が必要だと思われる所を訂正していく。
- ・講義課目に関しては、同様に評価になる可能性がある為、心がけていく。

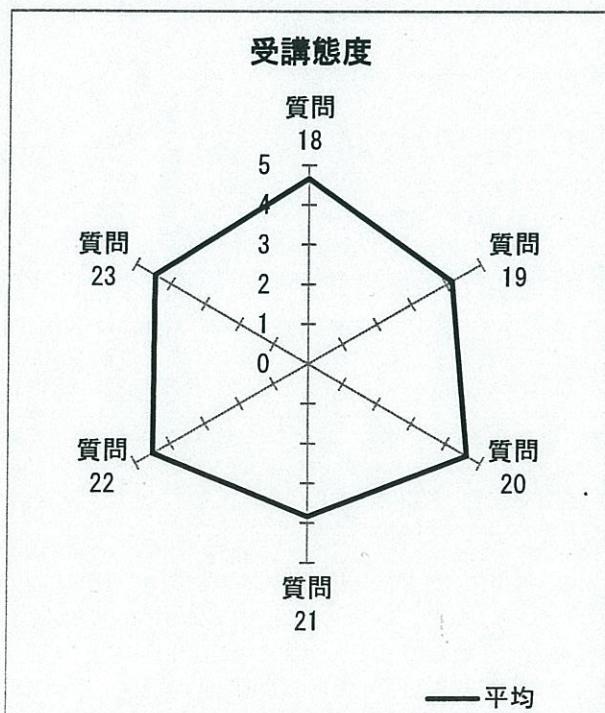
科目コード 710 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 毛利 洋子 基礎製図



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.6	4.7	3.5
質問8	4.6	4.7	4.0
質問9	3.9	3.9	3.5
質問10	4.2	4.2	4.0
質問11	4.3	4.3	3.5
質問12	4.3	4.4	4.0
質問13	4.3	4.4	3.5
質問14	4.4	4.5	3.5
質問15	4.4	4.5	3.0
質問16	4.3	4.5	3.0
質問17	4.5	4.6	3.0
平均	4.3	4.4	3.5

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	3.8
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	毛利洋子	基礎製図	27

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問項目9：教員の話し方、に対する評価が、他と比べ低い為、他科目でのコメントからも、声が通っていない可能性が高い。
- ・理解度に関しての学生の上下の開きが大きい。演習科目なので、差が出やすい科目でもあり、個々への補足説明等の対応をしてきたが、強化する必要があるようだ。
- ・質問項目21：授業内容の予習・復習に対する意識が低かったようだが、演習内容が時間内に終われる学生と終われない学生の差が生じる。課題の提出等の時期の設定により、時間外の製図室の活用等を促し、学生が遅れていかない為の対策を、今後も継続する必要があるようだ。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：

基礎製図、デッサン、インテリアデザイン、インテリアコーディネート、建築材料学、
インテリア材料、プロダクトデザインIII、色彩論、建築設備、建築法規、建築史、
学科専門セミナー、卒業研究

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・演習科目に関しては、同様のことが考えられる為、今回の評価を参考に取組んでいく。